

・ワークショップは平成25年11月2～3日に東京で開催され、環境の保全や回復の活動を実施している市民団体など36団体の参加により、いい川を目指す斬新な発想や視点などについて発表があり、公開討論会などによりグランプリ他の受賞者が決定した。

・設立以降、今年で4年目を迎えた矢作川流域圏懇談会がワークショップに参加。市民と一体となった川づくりや山や海での取り組みを紹介し、復活選考により入選した。(入選者17団体)

表彰結果	ブロック	水辺名称	所属
グランプリ	東北	福島県内の河川他	NPO法人環境ワーキンググループ伊達
準グランプリ	北海道	夕張川	河川愛護団体リバーネット21ながめま
	中部	加茂湖	佐渡島加茂湖水系再生研究所(カモケン)
入賞	関東	善福寺川	善福寺川を里山にカエル会
	近畿	琵琶湖	アイキッズ～エコアイデアキッズびわ湖～
	中国	旭川	旭川源流大学実行委員会
	関東	京浜臨海部	トンボはどこまで飛ぶかフォーラム
	近畿	芥川	芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク
入選	九州	彼杵川	東彼杵清流会
	関東	引地川	柳とあそぼう引地川
	関東	小山川	早稲田大学本庄高等学院
	関東	江戸城外濠	外濠市民塾実行委員会
	関東	利根川	埼玉共第九号地区運営委員会
	近畿	淀川・寝屋川	摂南大学 エコビル部
	九州	祝子川	宮崎県立延岡工業高等学校
	中部	矢作川	矢作川流域圏懇談会
	九州	遠賀川	国土交通省遠賀川河川事務所
	中国	白賀川他	関西高校理学部
	関東	全国河川	筑波大学白川研究室「川と人」ゼミ
	近畿	大和川	大和川市民ネットワーク
	九州	彼杵川	東彼杵町役場 まちづくり課
	東北	四ツ谷用水	NPO法人水・環境ネット東北
	中国	大野川	御津の「みどり」と「清流」を守る会
	東北	北上川	北上川フィールドライフクラブ
	中国	旭川	岡山野生物調査会
九州	蔽木川	自然と暮らしを考える研究会	
中国	旭川	旭川流域ネットワーク	
関東	荒川 千住桜木地区	国土交通省荒川下流河川事務所	
中国	玉柏子どもの水辺の広場	玉柏子どもの水辺運営協議会	
中部	諏訪湖	下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会	
中国	吉井川	岡山市立西大寺公民館 くらしと環境を考える会	
九州	そのぎ川	県北グリーンクラブ(長崎県森林ボランティア団体)	
中部	天竜川	NPO法人天竜川ゆめ会議	
関東	荒川太郎右衛門地区	国土交通省荒川上流河川事務所	
九州	本状江川(有明海)	(佐賀市上下水道局 下水浄化センター)	
中部	全国の川や水辺	一般社団法人ClearWaterProject	



全体発表会



活動状況

11月2日(1日目)

全体発表会

テーブル選考
(一次選考)

全体集会

交流懇親会

テーブル選考員(一次選考)	
氏名	所属
嶋田浩彦	NPO法人水環境北海道
渥美雅裕	国土交通省
内田尚宏	(社)いわて流域ネットワーク
佐藤年緒	環境科学ジャーナリスト
村岡敬子	(独)土木研究所
森久保司	国土交通省
安田吾郎	国土交通省
栗原秀人	NPO法人22世紀水倶楽部
黒沼尚史	国土交通省
小島 優	国土交通省
森山奈美	(株)御祓川
安田 実	いであ株式会社
新川達郎	同志社大学
岩下友也	国土交通省
岡 裕二	NPO法人緑川流域連携会議
近藤 朗	愛知川の会
土井裕子	NPO法人五ヶ瀬川流域ネットワーク
西江重信	グループエコライフ
安井辰弥	国土交通省
福沢 浩	NPO法人天竜川ゆめ会議
尾澤卓思	復興庁
君塚芳輝	淡水魚類研究者
関 克巳	NPO環境防災総合政策研究機構
田丸典彦	釧路野外教育研究会
橋本夏次	近木川流域自然大学研究会
竹原和夫	旭川流域ネットワーク
上田 豪	ねや川水辺クラブ
神谷 博	水みち研究会
徳道修二	国土交通省
中村圭吾	国土交通省
三井元子	NPO法人あらかわ学会
崎山正美	沖縄玉水ネットワーク
足立敏之	国土交通省
上野敏孝	かごしま防災文化フォーラム
金澤 光	埼玉県環境科学国際センター
相楽 治	NPO法人新潟水辺の会
藤兼雅和	愛知県建設部河川課

11月3日(2日目)

パネル
アピール

復活選考

入選者
発表会

全体選考
(二次選考)

公開討論会
(最終選考)

表彰式

全体選考(二次選考)コーディネーター	
氏名	所属
高橋万里子	NPO法人水・環境ネット東北
堂本泰章	公益財団法人埼玉県生態系保護協会

全体選考(二次選考)コメンテーター	
氏名	所属
小谷寛二	福山平成大学
五道仁実	国土交通省
佐藤寿延	国土交通省
百武ひろ子	(有)プロセスデザイン研究所
宮口侗迪	早稲田大学

公開討論会(最終選考)コーディネーター	
氏名	所属
片寄俊秀	ほんまちラボまちづくり道場
朴 恵淑	三重大学

公開討論会(最終選考)コメンテーター	
氏名	所属
柏木才助	公益財団法人リバーフロント研究所
藤井政人	国土交通省
右田いくみ	玉磨川水系ネットワーク
宮本善和	柳瀬川流域ネットワーク
森 誠一	岐阜経済大学

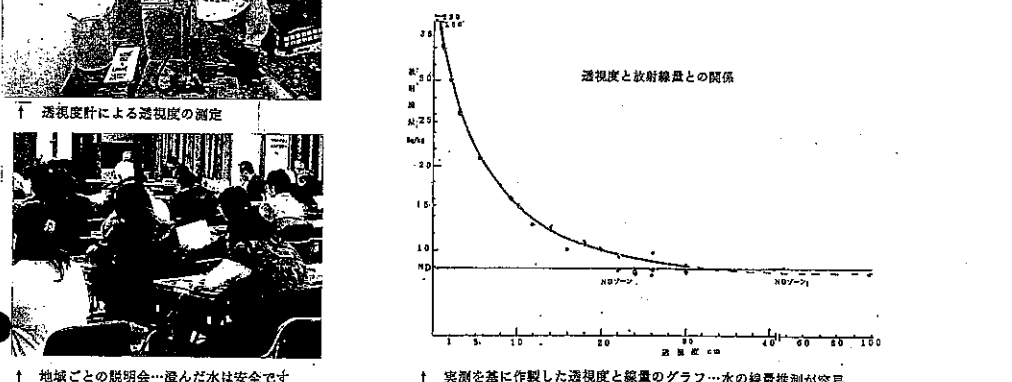
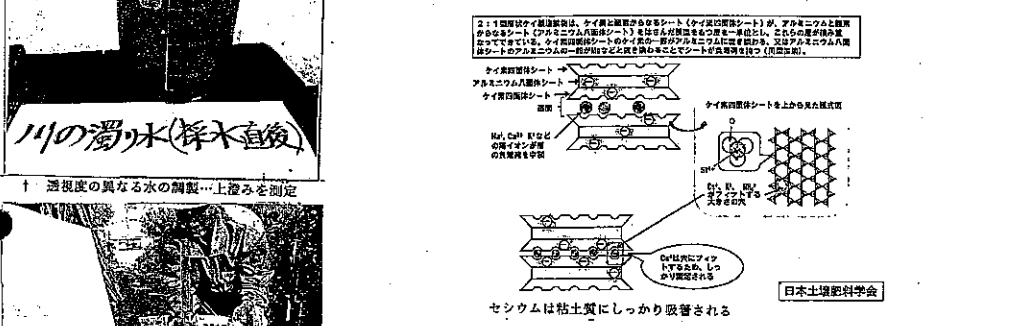
活動や事業の名称や応募に当たってのキャッチフレーズ
澄んでる水には放射性物質は含まれていない

川や水辺の名称 *ふりがなを忘れずに!	ふりがな よくしまけんだてし しよ かせんちしよう *川の場合 福島県伊達市を主とした河川・池沼 (川水系)	
所在地	福島 都・道・府 伊達 市町村 付近	
川や水辺の状況 川幅や瀬や淵など川の形状、水質や流れ、生きもの、景観や名所、洪水や治水などの状況、過去と現在の違い、住民と川の歴史、関わりなど	平成23年3月11日の東北大地震に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故により放射性物質が飛散し、わが伊達市にも降下して、3月の放射線量率は高い所で22μSv/h 低くとも1μSv/h以上あり、避難地域も数か所あり、それ以下の除染区域は多く見られ、現在も除染作業が進められている。時間の経過とともに物理的減衰で放射線量は減少しているが、河川水や池沼水などの放射性物質の汚染について使用の可否に住民の不安は続いている。	
活動や事業の内容 ・内容 ・成果 ・課題 など	私たちのグループは、地域の河川水の水質調査を二十年近く継続しているが、23年の原発事故以来、伊達市の委託事業で市内19地点の放射線量を毎日測定し市に報告している。それに関してグループ独自の活動として、住民の関心の高い河川・池沼水等の放射性物質汚染の調査や対策の検討を進めている。残念なことに市の放射線測定施設では飲料水以外の測定は行わず、河川や沼の水は測定しないので住民は不安を訴えている。それで簡単に測定して住民の方々に理解して頂ける方法はないかと研究し、現在一応の目的に達した。	
活動・事業の期間	(活動の場合) 23年7月 年から (事業の場合) 着工 年 ~ 竣工 年	
以下の項目は、テーマ別テーブル選考のグループ分けの参考になりますので、必ず記入してください		
主に発表したいこと ※一つに○印	① 調査や研究活動 / ② 広報や啓発のための活動等 / ③ 環境学習や体験活動 ④ 水辺の計画づくりや整備事業等への参加 / ⑤ 環境保全や回復の実践活動 / ⑥ “いい川”・水辺を実現した技術等 ⑦ その他 ()	
発表者 いずれかに○印	小・中・高校生但し高校生は市民等でも可 / (市民(個人、任意団体、NPO法人等) / 行政 / 官民共働 / 企業 / その他 ()	
アピールポイント ① 活動や事業の発想・視点の先進性やユニークさ ② 地域の歴史や暮らしとの結びつき ③ “いい川”づくりへのプロセス ④ 工夫した計画手法や技術 ⑤ その他	①~⑦の各項目で特に該当する内容があれば、番号を示して具体的な内容を記入してください。 まず降下後の放射性物質のセシウムの存在状態を調べると、粘土粒子に吸着されており、水の濁りは粘土粒子の分散なので透視度と放射線量率との関係を調べ、透視度がほぼ70cm以上になれば放射性物質は含まれず、安心して川沼の利用ができ川に入っても、灌漑用水にも支障がないことが分かり、水の透視度の測定で放射線量が判断できることをミニ集会などを開き啓蒙活動も進めた。その結果住民の方々も理解を示し、水田は再び耕作され、川岸の草刈りも復活し、多くの方々が「澄んでいる水」は危なくないと安心するようになった。	
キーワード(3つ)	① 放射線を正しく理解 ② 不要に怖がらない ③ 身近な事象に科学の目を	
応募者	ふりがな 応募者名	すげの ゆきお 菅野 幸雄 発表者想定人数: 2名・発表者以外参加者 0名
	連絡先 (公開可・非公開) (自宅・下記所属・その他) 該当する方に○印	住所: 〒 960-0601 福島県伊達市保原町字栄町62-1 TEL: 024-575-5238 FAX: 024-575-5238 E-mail:
	所属団体 (市民・行政) 該当する方に○印	ふりがな 所属名(団体・部署名など): ホームページ URL: NPO法人 環境ワーキンググループ伊達
	これまでの参加	新規 / 第4回大会参加(一次・二次・ 三次 ・グランプリ)



↑ 除染土置き場…降水や地下水が溜まる
↑ 伊達市に多く見られる灌漑用池
↑ 河川からのバケツによる採水

透視度で水の放射線量を推測しよう!



川や水辺の名称	伊達市を主とした河川・池沼	活動や事業の名称または応募に当たってのテーマ	透視度で水の放射線量を推測しよう!
所在地	福島県 伊達市	エントリーNo.	201 A 3
応募者名 所属団体名	すげの ゆきお 菅野 幸雄 NPO法人 環境ワーキンググループ伊達		

河川愛護団体 リバーネット21ながめま

子ども水防団の訓練 水害から命を守ろう

私達の住んでいる長沼町はアイヌ語で「タンネトー」細く長い沼と言う意味です。馬追山麓と夕張川に囲まれ80%が平坦で海拔7~8mの低地帯のため、春は雪解けで洪水、秋には暴風雨がきてまた洪水と、一生懸命育てた作物が収穫できなくなり、尊い命も失われました。今は大きな排水機場や堤防が完備され、ある程度大雨には耐えられるようになりました。しかし、最近の地球温暖化・異常気象の影響で予想外の水害に見舞われる事があるかもしれません。今年も12時間かけて89ミリの雨が降っただけで町内のあちこちが冠水しました。特別警報が出されるような状況になれば長沼町はひとたまりもありません。私達は特別警報が発令されるような状況に備え、水害によって尊い命が奪われないために、歴史に学び、体験学習をし、「いざ」というときに命を守るための術を身に付け、判断力を養っています。



私達は「いざ」という時に自分たちで出来る範囲で、自分の身を守りお互いに助け合い、安全に避難できることを目指します！

水害時の避難を想定した川の中歩行訓練

自分の身は自分で守る(私達は9年前から実践しています！)

水害の時は長靴や裸足ではなく運動靴で避難する。傘や棒を持ち自分の膝丈に目印をつけて深みに足をすくわれないように進路を探りながら歩きます。

※夕張川を利用する理由は、この川は常に濁っているため冠水した川と同様に深さが分からず訓練に最適です。

安全な避難ルートの確認・ハザードマップ作り

過去の水害記録資料を調べて「ハザードマップ」を作り、自宅から避難場所までの間にある危険箇所を調べて、水害などで実際に避難する時のために安全に避難できるルートを確認しました。

ジオラマを使った降雨実験

森や植樹活動の必要性・大切さを「保水力実験装置」を自作し実験して学んでいます。《樹木が茂る地面と樹木の無い地面の豪雨時の違いを学ぶ》

山や森林に木が無いと豪雨の時にどうなるかの実験装置を作りました。木や草が無いと雨水は地面にしみこみにくく鉄砲水や土砂災害の危険があります。

川への恩返し いい川づくり!

植樹活動
水害防止・地球温暖化防止のための植樹活動を毎年行っています。

馬追運河のゴミ拾い
運河の両岸2.5kmのゴミを拾い毎年清掃活動をしています。

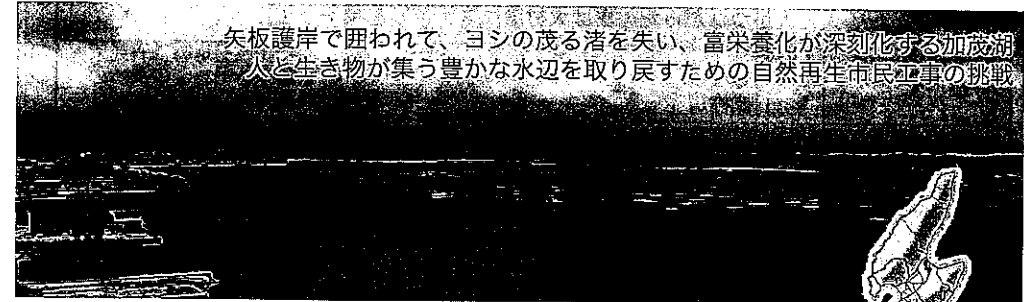
ふりがな 川や水辺の名称	ゆうばりがわ 夕張川	いしがかりがわ (石狩川水系)	活動や事業の名称	子ども水防団の訓練
所在地	北海道夕張郡長沼町	長栗大橋付近	キャッチフレーズ	水害から命を守ろう
応募者名(ふりがな) 所属団体名	やまもと たかゆき 山本 隆幸	ながめま リバーネット21ながめま	個人(不) エントリーNO.	101 C 6

活動や事業の名称や応募に当たってのキャッチフレーズ
活動：子ども水防団の訓練 キャッチフレーズ：水害から命を守ろう

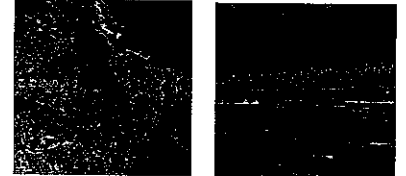
川や水辺の名称 *ふりがなを忘れずに!	ふりがな ゆうばりがわ 夕張川	*川の場合 いしがかりがわ (石狩川水系)
所在地	北海道 夕張市 長栗大橋 付近	
川や水辺の状況 ・川幅や瀬や淵など川の形状、水質や流れ、生きもの、景観や名所、洪水や治水などの状況、過去と現在の違い ・住民と川の歴史、関わりなど	私達の住んでいる長沼町はアイヌ語で「タンネトー」細く長い沼と言う意味です。馬追山麓と夕張川に囲まれ、80%が平坦で海拔7~8mの低地帯のため、春は雪解けで洪水、秋には暴風雨がきてまた洪水と、一生懸命育てた作物が収穫できなくなり、尊い命も失われました。今は大きな排水機場や堤防が完備され、ある程度大雨には耐えられるようになりました。しかし、最近の地球温暖化・異常気象の影響で予想外の水害に見舞われる事があるかもしれません。今年も、12時間かけて89ミリの雨が降っただけで町内のあちこちが冠水しました。特別警報が出されるような状況になれば長沼町はひとたまりもありません。私達は特別警報が発令されるような状況に備え、水害によって尊い命が奪われないために、歴史に学び、体験学習をし、「いざ」というときに命を守るための術を身に付け、判断力を養っています。	
活動や事業の内容 ・内容 ・成果 ・課題 など	内容：①災害弱者となりうる子どもが、棒を持つての「水中歩行訓練」、あえて川に流されることを体験する「川流れ体験」などの水防活動を通じて「水害から命を守る」ための術や判断力を養っています。 ②水害や地球温暖化を防止するための植樹活動。地元の山から採取した種を播き、苗を育て、植樹し、経過観察を繰り返して行う活動と、植樹の大切さのPRのためのジオラマ製作と降雨実験。 成果：①「水害時は棒を持つて進路を探りながら歩く」、「長靴や裸足で避難するのは危険」「流れが速いと水が濁ると流される」と、私たちは子ども水防団の訓練で9年前から身を持って体験してきました。全国的に水害の多い昨今、ニュースなど水害時にどのようにして命を守ることができるかが、ようやく語られるようになってきたことにより、活動に一層の誇りと自信を持つことができました。②ジオラマを使った実験では、木がないと水が一気に流出し、茶色い水が流れ出てきます。木があると同じ雨量でもゆっくりと水が流れ出て、流れ出る水も透明です。木を植えると土地の保水力が上がること、土砂の流出を防ぐことが一目瞭然と理解でき、植樹の大切さを理解するのに役立っています。	
活動・事業の期間	(活動の場合) 平成17年から、年5~6回	(事業の場合) 着工 年 ~ 竣工 年
主に発表したいこと ※一つに○印	以下の項目は、テーマ別テーブル選考のグループ分けの参考にしますので、必ず記入してください ① 調査や研究活動 / ② 広報や啓発のための活動等 / ③ 環境学習や体験活動 ④ 水辺の計画づくりや整備事業等への参加 / ⑤ 環境保全や回復の実践活動 / ⑥ 「いい川」・水辺を実現した技術等 ⑦ その他 ()	
発表者 いずれかに○印	小・中・高校生但し高校生は市民等でも可 / 市民(個人、任意団体、NPO法人等) / 行政 / 官民共働 / 企業 / その他 ()	
アピールポイント ① 活動や事業の発想・視点の先進性やユニークさ ② 地域の歴史や暮らしとの結びつき ③ 「いい川」づくりへのプロセス ④ 工夫した計画手法や技術 ⑤ その他	①水害時の避難を想定した川の中歩行訓練、川流れ体験、土壌積みなどは9年前から取り組んできました。自分たちで製作したジオラマによる降雨実験では森の大切さが一目瞭然と理解できました。 ②度重なる長沼の水害体験を世代間交流により語り継ぎ、また、水害の跡を見学することで、過去の水害体験を風化させない努力をしています。 ③川の恩恵を受けた実り豊かな長沼で、川への恩返しとして、植樹活動・ゴミ拾い等を行い「いい川づくり」に貢献しています。 ④水害時に深みにはまり流されないように、膝丈に目印をつけた棒を持つて歩きます。森の大切さを理解するためのジオラマ作りと降雨実験をして森の大切さをPRしています。 ⑤全国各地で水害の多い昨今、報道でも「自分の身は自分で守る」としばしば耳にしますが、リバーネット21ながめまでは平成17年から、地域の特性について学び、理解し、「自分の身は自分で守る」ことに取り組み、知識を深めてきました。	
キーワード(3つ)	①自分の身は自分で守る ②水防訓練 ③川への恩返し	
応募者	ふりがな 応募者名	やまもと たかゆき 山本 隆幸 発表者想定人数：5名・発表者以外参加者1名
	連絡先 (公開可) (自宅・下記所属・その他)	住所：〒069-1334 北海道夕張郡長沼町錦町南1丁目1-17 TEL：(0123) 88-2403 FAX：(0123) 88-0320 E-mail：yamamoto.takayuki@lemon.plala.or.jp
	所属団体 (市民・行政) 該当する方に○印	ふりがな 所属名(団体・部署名など)：河川愛護団体リバーネット21ながめま ホームページURL：http://rivernet21naganuma.web.fc2.com/
これまでの参加	第1回大会参加(準グランプリ) 第2回大会(1次) 第3回大会(2次) 第4回大会(3次)	

活動や事業の名称や応募に当たってのキャッチフレーズ
トキが見守る加茂湖・こごめのいりのヨシ原再生市民工事

川や水辺の名称 *ふりがなを忘れずに！	ふりがな かもこ *川の場合 加茂湖 (川水系)	
所在地	新潟県 佐渡市	
川や水辺の状況 ・川幅や瀬や淵など川の形状、水質や流れ、生きもの、景観や名所、洪水や治水などの状況、過去と現在の違い ・住民と川の歴史、関わりなど	カキ養殖業が主産業の周囲約17km、面積約5km ² の汽水湖。20世紀の初めに洪水対策として水路を掘削し、淡水から汽水へと環境が変化した。四つの河川と水路から流入した水は、加茂湖を通して海へと流れる。約40年前の農道整備事業で、湖岸の八割が矢板で囲われてしまったため、水循環が遮断され、環境悪化が進んでいる。近年は赤潮プランクトンの発生で漁業に深刻な被害が出ている。2008年に加茂湖のカキ養殖業者、大学、行政組織が協働で「佐渡島加茂湖水系再生研究所（カモケン）」を設立。ヨシ原再生の市民工事を推進し、加茂湖の再生に取り組んでいる。	
活動や事業の内容 ・内容 ・成果 ・課題 など	加茂湖の「こごめのいり」という小さな入り江で2010年に開始したヨシ原再生プロジェクトは、市民主体の環境保全事業として大きな成果を取めた。矢板護岸で覆われた加茂湖は、水辺にアクセス可能な渚を失い、人が近寄ることの出来ない水辺となってしまったが、こごめのいりの再生によって、子どもたちの姿が加茂湖に戻った。現在は近隣の学校の環境教育の場としても活用され、漁業者と子どもたちとの対話の機会が生まれている。こごめのいりのヨシ原再生が成功したことを受け、2013年度からは水産多面的機能発揮対策事業を依頼され、さらに広域でのヨシ原再生に挑戦している。	
活動・事業の期間	(活動の場合) 2010年から (事業の場合) 着工 年 ~ 竣工 年	
以下の項目は、テーマ別テーブル選考のグループ分けの参考にしますので、必ず記入してください		
主に発表したいこと ※一つに○印	① 調査や研究活動 / ② 広報や啓発のための活動等 / ③ 環境学習や体験活動 ④ 水辺の計画づくりや整備事業等への参加 / ⑤ 環境保全や回復の実践活動 / ⑥ “いい川”・水辺を実現した技術等 ⑦ その他 ()	
発表者 いずれかに○印	小・中・高校生但し高校生は市民等でも可 / 市民(個人、任意団体、NPO法人等) / 行政 / 官民共働 / 企業 / その他 ()	
アピールポイント ① 活動や事業の発想・視点の先進性やユニークさ ② 地域の歴史や暮らしとの結びつき ③ “いい川”づくりへのプロセス ④ 工夫した計画手法や技術 ⑤ その他	①~⑤の各項目で特に該当する内容があれば、番号を示して具体的な内容を記入してください。 ①&③多様な人びとが会して加茂湖再生のプランを立てる「談義」と、自らの手で環境保全を実践する「市民工事」により、民主的なプロセスによる環境保全を進めている。子どもたちにも談義への参加を募り、彼らのアイデアも積極的に取り入れ、多世代による環境づくりが実現している。母体となるカモケンも、多様な立場、年齢の人の協働を図るためのプラットフォームであり、地域の知恵を生かすしくみでもある。	
キーワード(3つ)	①市民工事 ②談義 ③協働	
応募者	ふりがな 応募者名	とよだみつよ 豊田光世 発表者想定人数：3名・発表者以外参加者 3名
	連絡先 (公開可・非公開) (下記所属)印	住所：〒952-0103 新潟県佐渡市新穂潟上 1101-1 TEL：0259-22-3666 FAX：0259-22-3666 E-mail：toyoda@shse.u-hyogo.ac.jp
	所属団体 (市民・行政) 該当する方に○印	ふりがな さどがしまかもこすいけいせいけんきゅうしょ 所属名(団体・部署名など)：佐渡島加茂湖水系再生研究所(カモケン) ホームページURL：http://kamoken08.web.fc2.com/
	これまでの参加	新規 / 第 回大会参加(一次・二次・三次・グランプリ)



Kamoko



加茂湖のカキ養殖業者、行政職員、大学研究者らが連携して加茂湖の再生に取り組む市民研究所「カモケン」を設立し、ボトムアップの自然再生事業を推進！

- 湖岸にヨシ原を再生し、生き物の生息しやすい環境をつくる
- 人が水に近づくことのできる渚をつくる
- 思いを共有する人びとがアクションを起こすしくみをつくる
- 子どもたちの参画を進め、加茂湖の未来を次世代へとつなぐ

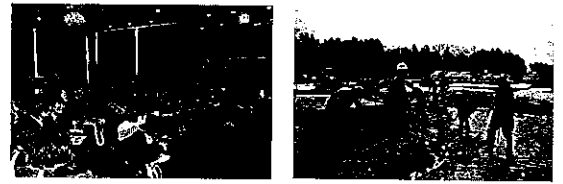
Mission

周囲17kmの汽水湖でカキの養殖が盛んな湖岸の約8割を矢板で覆われてから、富栄養化や生物の生息環境悪化が深刻。佐渡市所有の法定外公共物。

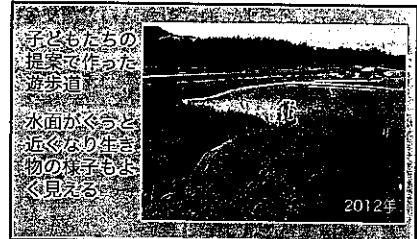
Approach

談義 × 市民工事

みんなで思いを共有して計画を作る「談義」のプロセスと、地域のインシアティブで公共空間を整備する「市民工事」を繰り返し、ヨシの茂る渚を再生する



こごめのいりは魅力的な水辺へと大きく変化



Result

ふりがな 川や水辺の名称	かもこ 加茂湖 (川水系)	活動や事業の名称または応募に当たってのテーマ
所在地	新潟県 佐渡市	トキが見守る加茂湖・こごめのいりのヨシ原再生市民工事
応募者名(ふりがな) 所属団体名	さどがしまかもこすいけいせいけんきゅうしょ 佐渡島加茂湖水系再生研究所(カモケン)	(記入不要) エントリーNo. 404 F5

活動や事業の名称や応募に当たってのキャッチフレーズ 善福蛙—市民力により日本を元気にするプロジェクト！—	
川や水辺の名称 *ふりがなを忘れずに！	ふりがな ぜんぶくじがわ *川の場合 あらかわ (善福寺川 (荒川水系))
所在地	東京都 杉並区
川や水辺の状況 ・川幅や瀬や淵など川の形状、水質や流れ、生きもの、景観や名所、洪水や治水などの状況、過去と現在の違い ・住民と川の歴史、関わりなど	・コンクリート三面張りの典型的な都市河川。 ・河道は深く掘り込まれ、柵で囲われており、川の中に入ることは困難。 ・流域内の下水道は合流式下水道を採用しており、大雨時には汚水が川へと流れ出る。 ・川沿い3つの都立公園(昔は水田だった)があり、河川再生の可能性を残している。 ・流域内には、多くの社寺があり、流域の履歴を読み取れる。 ・昔は多くの湧水があったが、現在ではその多くが枯れてしまっている。 ・都市化に伴い水害が激化し、現在では河川改修が進行中。
活動や事業の内容 ・内容 ・成果 ・課題 など	「善福寺川を里川にカエル会」(通称:善福蛙)は杉並区を流れる善福寺川を里川にカエルことを目標にしている市民団体です。カエル=蛙=変えるです。カエルは孵るでもあります。新しいものが生まれるという意味も込めています。カエルは両生類。カエルは水辺と陸の両方の環境がそろわなくては生きていけません。人も現実の世界と精神の世界(夢の世界)の両者の間で生きています。環境と心が豊かになる社会を目指して、仲間と力を合わせて考え、行動し、カエル。大きな震災があり、日本人の心は沈んでいます。楽しいことを力を合わせてすること、身近な環境を市民の創意で変えることが善福蛙の目標です。善福寺川が里川に変わる、東京が変わる、そして日本が変わることを目指して2011年より活動を開始しました。
活動・事業の期間	(活動の場合) 2011年から (事業の場合) 着工 年 ~ 竣工 年
以下の項目は、テーマ別テーブル選考のグループ分けの参考にしますので、必ず記入してください	
主に発表したいこと ※一つに○印	① 調査や研究活動 / ② 広報や啓蒙のための活動等 / ③ 環境学習や体験活動 ④ 水辺の計画づくりや整備事業等への参加 / ⑤ 環境保全や回復の実践活動 / ⑥ “いい川”・水辺を実現した技術等 ⑦ その他 ()
発表者 いずれかに○印	小・中・高校生但し高校生は市民等でも可 / 市民(個人、任意団体、NPO法人等) / 行政 / 官民共働 / 企業 / その他 ()
アピールポイント ① 活動や事業の発想・視点の先進性やユニークさ ② 地域の歴史や暮らしとの結びつき ③ “いい川”づくりへのプロセス ④ 工夫した計画手法や技術 ⑤ その他	①~⑤の各項目で特に該当する内容があれば、番号を示して具体的な内容を記入してください。 ①「みんなが主役!善福寺川スタイルの川づくり」—東京の里川を目指して— 善福蛙のメンバーは、多種多様です。市民も専門家も、大人も子供も、地元もよそも関係なく、善福寺川に興味のある人が集まっています。善福蛙は「みんなが先生、みんなが生徒」として、それぞれが得意分野で、できることをできる範囲で力をだしあいます。ですので、その活動も多種多様です。「善福寺川カフェ」で川のファンを増やす、「ふるさと見分け」で流域の風土を知る、井荻小で川掃除参加や出張授業で小学生と交流する、「武蔵野の森復活」「和田堀りのかいぼり」に向けて学ぶ、「ホテル水路」の再生ワークショップの開催など、毎月のようにわいわいがやがやと活動しています。まず目指すは市民工事によるホテル水路の再生!東京ならではのいい川づくりのスタイルが姿を現しつつあります。
キーワード(3つ)	①市民力 ②カエル ③里川
応募者	ふりがな 応募者名 三田 秀雄 発表者想定人数: 4名・発表者以外参加者 5名
	連絡先 (非公開) (自宅) 住所: 〒 TEL: FAX: E-mail:
	所属団体 (市民) ふりがな ぜんぶくじがわをさとがわにかえるかい(ぜんぶくかえる) 所属名(団体・部署名など): 善福寺川を里川にカエル会(善福蛙) ホームページURL: https://sites.google.com/site/zempukugaeru/
	これまでの参加 新規 / 第 回大会参加(一次・二次・三次・グランプリ)

第6回いい川・いい川づくりワークショップ 善福蛙—市民力により日本を元気にするプロジェクト！—

善福寺川を里川にカエル会(通称:善福蛙)



善福蛙は杉並区を流れる善福寺川を里川にカエルことを目標にしている市民団体です。カエル=蛙=変えるです。カエルは孵るでもあります。新しいものが生まれるという意味も込めています。カエルは両生類。カエルは水辺と陸の両方の環境がそろわなくては生きていけません。人も現実の世界と精神の世界(夢の世界)の両者の間で生きています。環境と心が豊かになる社会を目指して、仲間と力を合わせて考え、行動し、カエル。大きな震災があり、日本人の心は沈んでいます。楽しいことを力を合わせてすること、身近な環境を市民の創意で変えることが善福蛙の目標です。善福寺川が里川に変わる、東京が変わる、そして日本が変わることを目指して2011年より活動を開始しました。

里川って何?

里川に決まった定義はありません。善福蛙は、「杉並や東京にとって里川ってどんな川だろう?」「それはどのような風景だろう?」「どのようにつくっていくのだろう?」など、話し合いやワークショップを通して、これから善福寺川の里川像をつくっていきたくと考えています。



善福蛙のメンバー



これまでの善福蛙の活動

- | | | |
|-------|---------|---|
| 2011年 | 10月5日 | 善福寺川の多自然川づくりプロジェクトの提案 |
| | 12月17日 | 善福寺川を里川にカエル会の構想決まる |
| | 3月11日 | 杉並区まちづくり博覧会参加 |
| | 3月15日 | 神田川上流域懇談会(第3期第6回)傍聴 |
| | 3月31日 | 善福蛙準備会 キックオフ・会議(第1回) |
| | 4月8日 | 緑の善福寺川を愛でる会 植物観察会 |
| | 5月12日 | 善福蛙アクション(第2回)・横浜市和泉川(多自然再生)の見学会 |
| | 6月10日 | 善福蛙アクション(第3回)・下流域を歩く |
| | 6月29日 | 土屋先生の勉強会 |
| | 7月05日 | 神田川上流域懇談会(第3期第7回)傍聴 |
| | 7月10日 | 善福蛙アクション(第4回)・善福寺池と上流域を歩く |
| | 7月21日 | 土屋先生と善福寺川を歩く |
| | 7月6日-8日 | 井荻小学校の善福寺川の学習と清掃に参加 |
| | 9月14日 | 吉村さんと善福寺川周辺の調査 |
| | 10月13日 | 善福蛙アクション(第5回)
すぎなみ環境ネットワークの小学校での環境教育について勉強 |
| | 10月21日 | 「善福寺川発見!」に参加 |
| | 11月21日 | 井荻小学校6年生の善福寺川の学習に出前授業 |
| | 12月2日 | 善福寺川フォーラムに参加 |
| | 1月12日 | 善福蛙アクション(第6回)・本会立ち上げの相談 |
| | 4月6日 | 「立ち上げ集会」善福蛙本会設立 |
| | 5月25日 | 善福寺川アクション(第7回)野川見学会 |
| | 7月20日 | 善福カエルカフェ with スターバックス |
| | 7月28日 | すぎなみ環境ネットワーク講演会 講師 吉村さん |
| | 9月7日 | 第15回日本感性工学会総会大会 特別企画善福蛙 |
| | 10月12日 | 善福蛙アクション「善福寺川再生の夢をカタチにしよう!」 |
| | 12月8日 | 第14回善福寺川フォーラム「めざせ 川ガキ復活!」 |

善福蛙の活動



ふりがな 川や水辺の名称	ぜんぶくじがわ 善福寺川 (荒川水系)	活動や事業の名称または応募に当たってのテーマ
所在地	東京都杉並区	善福蛙—市民力により日本を元気にするプロジェクト！—
応募者名(ふりがな) 所属団体名	善福寺川を里川にカエル会 (通称:善福蛙)	(記入不要)エントリーNo.
		306 B 2

活動や事業の名称や応募に当たってのキャッチフレーズ ふるさとの伝統食づくりを通して、琵琶湖のめぐみを生かした食文化について考えよう。		
川や水辺の名称 *ふりがなを忘れずに!	ふりがな びわこ *川の場合 琵琶湖 (淀川水系)	
所在地	滋賀県 草津市	
川や水辺の状況 ・川幅や瀬や淵など川の形状、水質や流れ、生きもの、景観や名所、洪水や治水などの状況、過去と現在の違い ・住民と川の歴史、関わりなど	琵琶湖の水は、近畿に住む約1400万人の命の水である。また、世界で三番目に古い琵琶湖は、固有種の宝庫でもある。滋賀には、固有種に支えられた独特の「琵琶湖の湖魚食文化」が形成されてきた。しかし、最近では、水道の蛇口から出る水が琵琶湖からきていることや身近に湖魚食文化があることは、あまり意識しなくなってきている。湖魚を食べる機会すら減滅している。伝統的な湖魚食文化を体験することは、琵琶湖の恵みについて考えることでもある。琵琶湖や琵琶湖に流れ込む約500本の川づくりを生物多様性の確保や食文化の維持・継承という視点から考えていきたい。	
活動や事業の内容 ・内容 ・成果 ・課題 など	子供達は、伝統食作りを通して、ふるさとの食文化について学び、食材を生むふるさとの豊かな環境に愛着や誇りを深めている。 子供達は、様々な伝統食にチャレンジしてきた。食材を手に入れるところから体験がはじまる。漁師さんと琵琶湖へ漁に出て魚や貝を捕ったり、農夫さんと田畑で米や野菜を収穫したりしてきた。また、調味料も、昔ながらの製法の地元の醤油蔵や酒蔵等を訪ねて手に入れる。そして、必ず現地で生産者の方から食に対する思いを聞く。伝統食作りの先生は、地元のお年寄りや郷土料理の研究者、時には漁師さんと農夫さんであったりする。子供達は、様々な人との出会いを通して、伝統食には、食材と風土を上手に生かした先人の知恵が詰まっていることに気づいていく。 失われつつある「湖魚食文化」を継承するために、子供達のチャレンジが始まった。	
活動・事業の期間	(活動の場合) 2008年から (事業の場合) 着工 年～竣工 年	
以下の項目は、テーマ別テーブル選考のグループ分けの参考にしますので、必ず記入してください		
主に発表したいこと ※一つに○印	① 調査や研究活動 / ② 広報や啓発のための活動等 / ③ 環境学習や体験活動 ④ 水辺の計画づくりや整備事業等への参加 / ⑤ 環境保全や回復の実践活動 / ⑥ “いい川”・水辺を実現した技術等 ⑦ その他 ()	
発表者 いづれかに○印	小・中・高校生但し高校生は市民等でも可 / ○市民 (個人、任意団体、NPO法人等) / 行政 / 官民共働 / 企業 / その他 ()	
アピールポイント ① 活動や事業の発想・視点の先進性やユニークさ ② 地域の歴史や暮らしとの結びつき ③ “いい川”づくりへのプロセス ④工夫した計画手法や技術 ⑤ その他	① 子供達が「琵琶湖固有種に支えられた琵琶湖型食生活を体験する」として、固有種のニゴロブナ、ゲンゴロウブナ、ビワマス、ホンモロコ、セタジミ等を料理する。 ② 体験重視と地元食材にこだわり。琵琶湖独特の「えり漁」「セタジミ漁」「地曳網漁」等の体験や、地元野菜の栽培や収穫体験を実施。ホンモロコの養殖場の作業協力や、ビワマスの採卵見学など、固有種を守り育てる活動も実施。 ② 人と人とのつながりを大切に。県、市、博物館、漁協、JA、大学、企業、NPO等の協力を得て活動している。 ② 文化や歴史とのつながりを大切に。滋賀の信楽焼きの窯元と連携。子供達の手作りの信楽焼き陶器に料理を盛る。また、地元史跡を訪れ、食文化について学ぶ。 ① 世界初の「近江牛」のなれずし、地鶏「近江しゃも」の親子丼、地元野菜「愛彩菜」の料理等、昔の製法のよさや素材の特性を生かして、新たな料理を提案する。 ③ 滋賀の「川づくりフォーラム」でグランプリ受賞。他のこどもエコクラブとの連携、JICAの海外研修生との交流、国内外(タイ・中国等)の子供交流会への参加を通して、滋賀の食文化や食材を生み出す琵琶湖や川環境について考える。	
キーワード(3つ)	① 子ども ② 食文化 ③ つながり	
応募者	ふりがな 応募者名	なかむら だいすけ 中村 大輔 発表者想定人数: 2名・発表者以外参加者2名
	連絡先 (○公開可) (○自宅)	住所: 〒521-1123 滋賀県彦根市肥田町996-2 TEL: 090-2354-8376 FAX: 0749-43-5154 E-mail: gwtprn566@yahoo.co.jp
	所属団体 (○市民)	ふりがな 所属名(団体・部署名など): アイキッズ～エコアイデアキッズびわ湖～ ホームページ URL: http://blog.canpan.info/i_kids/
これまでの参加	新規	

アイキッズ

アイキッズは、滋賀の伝統食づくりを通して、子供達が、郷土に愛着や誇りを持つことをねらいに活動している。また、人と人との「つながり」を大切にして、新たな食文化の創造にも挑戦している。琵琶湖の恵みに支えられた湖魚食文化を残せるかは、次世代の育成と琵琶湖や流れ込む約500河川の川づくりにかかっている。

① (世界に例を見ない程発展している)
琵琶湖の湖魚食文化を子供達が継承
琵琶湖固有種に支えられた琵琶湖型食生活を体験するとして、固有種のニゴロブナ、ゲンゴロウブナ、ビワマス、ホンモロコ、セタジミ等を料理する。

② 子供が主体 (異年齢交流)
活動内容やテーマは、子供達が決める。滋賀県草津市内の小中高校生16名が、月に一度程度集まり活動を実施。



③ 人と人とのつながりを大切に
滋賀県草津市、琵琶湖博物館、琵琶湖の漁協、滋賀のJA、大学、企業、NPO等の協力を得て活動している。

④ 体験重視と地元食材へのこだわり
琵琶湖独特の「えり漁」「セタジミ漁」「地曳網漁」等の体験や、地元野菜の栽培や収穫体験を実施。

⑤ 文化や歴史とのつながりを大切に
滋賀の信楽焼きの窯元と連携。子供達の手作りの信楽焼き陶器に料理を盛る。草津宿本陣等の地元史跡を訪れ、郷土の歴史と食との関連を学ぶ。

⑥ 新たな食文化の発信
世界初の「近江牛」のなれずし、地鶏「近江しゃも」の親子丼、地元野菜「愛彩菜」の料理等、昔の製法のよさや素材の特性を生かして、新たな料理を提案する。

⑦ 琵琶湖固有種を守り育てる活動
ホンモロコの養殖場の作業協力や、ビワマスの採卵見学や稚魚飼育(今秋予定)を実施。

⑧ 情報発信・交流事業
他のエコクラブとの連携、JICAの海外研修生との交流、国内外(タイ・中国等)の子供交流会に参加し活動を報告。



⑨ 子供達を支える仕組み
アイキッズを運営しているのは、地元企業の従業員有志が立ち上げた「びわ湖エコアイデア倶楽部」。工場の近くに住む子供達を集め活動している。指導者(学校教員)、大人サポーター(倶楽部会員)が子供達の活動を支える。

⑩ 活動が認められて・・・
滋賀県主催の「淡海の川づくりフォーラム」において、グランプリに選ばれ、嘉田知事より表彰された。

ふりがな 川や水辺の名称	びわこ 琵琶湖 (淀川水系)	活動や事業の名称または応募に当たってのテーマ ふるさと滋賀の伝統食づくりを通して、琵琶湖のめぐみを生かした食文化について考えよう。
所在地	滋賀県草津市	エントリーNo. 504 C1
応募名(ふりがな) 所属団体名	中村 大輔 (なかむら だいすけ) アイキッズ～エコアイデアキッズびわ湖～	

活動や事業の名称または応募に当たってのキャッチフレーズ（両方記入可）

【旭川源流の碑】リヤカーで運び流域の人と心をつなぎ、魂を伝え、140年建て続ける！

川や水辺の名称 *ふりがなを忘れずに！	ふりがな あさひがわ 旭川 (一級河川旭川水系)	*川の場合
所在地	岡山県 旭川流域 3市4町1村 流域全体	
川や水辺の状況 ・川幅や瀬や淵など川の形状、水質や流れ、生きもの、景観や名所、洪水や治水などの状況、過去と現在の違い ・住民と川の歴史、関わりなど	旭川（あさひがわ）は、中国山地の火山である蒜山三座（上蒜山・中蒜山・下蒜山）を最北端にして約140の支流から流れる水を集めて、県庁所在地である岡山市の中心部を流れ、瀬戸内海の児島湾に注ぐ、流域面積1,810km ² 、幹川流路延長142km、の一級河川です。本川上に湯原ダム（堤高73.5m・総貯水量99600千m ³ ）、旭川ダム（堤高45.0m・総貯水量57382千m ³ ）という大きなダムがあるがその直下流に新庄川や宇甘川等の大きな支流が流れ込み、水質も水量も豊かで、淡水魚の魚種も44種類と全国の一級河川の内第3位となっています。	
活動や事業の内容 ・内容 ・成果 ・課題 など	<p>・内容 旭川のすべての支流に「川守」を育て連携しようと、1年に1本、140年計画で、自分たちの川も旭川の源流なのだという意識を持って活動を行っている人達のところへ旭川源流の碑を建立している。碑は、建立地を出発して川守たちがいる地域をリヤカーに載せて徒歩でリレーし、流域の皆さんと交流を重ねながら8ヶ月の流域を巡る旅をして、建立される。建立の前日には「旭川流域交流シンポジウム」も開催している。今年17本目の源流の碑が建立される。また、旭川流域の一斉水質調査も15年間継続して実施している。</p> <p>・成果 活動を始めて17年。流域の川守たちとの継続的な交流が進み、流域全体での連帯感が醸成されている。</p> <p>・課題 上流域においては、山の保全等の課題を抱えながら高齢化と近年の市町村の合併による市民活動への行政支援の打ち切り等で様々な活動が低迷している。特に下流に比べて、上、中流域は、インターネット接続率が低く、情報の伝達が課題となっている。下流域では、下水道の整備は進んでいるが供用率が伸び悩んでおり、水質の改善のためにも下水道の整備から接続へ重点を置く施策が必要とかんじている。</p>	
活動・事業の期間	活動の場合： 1997年から、通年 17年	事業の場合： 着工 年～竣工 年

以下の項目は、テーマ別テーブル選考のグループ分けの参考にしますので、必ず記入してください

主に発表したいこと ※一つに○印	① 調査や研究活動 / ② 広報や啓発のためのイベント活動 / ③ 環境学習や体験活動 / ④ 水辺の計画づくりや整備事業等への参加 / ⑤ 環境保全や回復の実践活動 / ⑥ “いい川”・水辺を実現した技術 / ⑦ その他（流域の連携・情報の共有）
発表者 いづれかに○印	学童（小・中・高校生但し高校生は大人でも可） / 市民（個人、任意団体、NPO法人等） / 行政 / 官民共働 / 企業 / その他（ ）
アピールポイント ① 活動や事業の発想・視点の先進性やユニークさ ② 地域の歴史や暮らしとの結びつき ③ “いい川”づくりへのプロセス ④ 工夫した計画手法や技術 ⑤ その他	<p>① 流域全体で川守と連携し、相互交流により継続した活動が出来るような仕組みとして「旭川源流の碑」を建立。毎年源流地の木を伐採し、地元の子供達の手作りで碑を作り、リヤカーに載せ、リレーで流域各地（建立地～河口～建立地）を8ヶ月かけて巡り、次代の子供達によりよい環境を引き継ごうという決意の証として、建立している。</p> <p>② 建立地は毎年変わる。さまざまな地域で歴史文化地形、生活等の違いを感じながら水とのかかわりを学び、交流の中で様々な課題や問題点について話し合える。</p> <p>③ 川は人との結びつきやの思いがあってこそ「いい川」</p> <p>④ 誰でもが無理なく参加できるように、ルート選定や、交流会費の低減等工夫している。</p> <p>⑤ 様々な問題を前向きに考えるように心掛け、継続出来るよう、無理のなく楽しい活動を心掛けている。今年、17本目は久米南町北庄「交流館棚田の里北庄」敷地内に建立される旭川源流の碑が河口で折り返し、建立地へ向けてリレーされている。</p>
キーワード（3つ）	「全ての川に川守を」「楽しく無理なく」「継続が何かを生み出す」

応募者	ふりがな 応募者名	なかつかしょうご 中塚 省吾 発表者想定人数： 2名・発表者以外参加者 0名
	連絡先 (公開可・非公開) (自宅・下記所属・その他)	住所：〒 TEL： FAX： E-mail：
	所属団体 (市民・行政)	所属名（団体・部署名など）：旭川流域ネットワーク ホームページURL：http://blogs.yahoo.co.jp/okakawa2 E-mail:okakawa2@yahoo.co.jp
	これまでの参加	新規 / 第1回大会参加（一次・二次・三次・準グランプリ・グランプリ）

「旭川源流の碑」をリヤカーで運び流域の人と心をつなぎ、魂を伝え、140年建て続ける！
全ての川に川守を！

旭川源流の碑建立地

2011 2008 2001 2002 2006 2007 2008 2013

継続が何かを生み出す！

楽しく無理なく！

河口到着

下流ルート図

2013旭川源流の碑リヤカー旅（上・中流域）ルート図



ふりがな 川や水辺の名称	あさひがわ 旭川（一級河川旭川水系）	活動や事業の名称又は応募に当たってのテーマ 全ての川に川守を！楽しく無理なく！ 継続が何かを生み出す！
所在地	岡山県 3市4町1村	(記入不要) エントリーNo. 606 D1
応募者名 所属	中塚 省吾 旭川流域ネットワーク(AR-NET)	

活動や事業の名称や応募に当たってのキャッチフレーズ トンボはドコまで飛ぶがフォーラム トンボでつなぐ京浜の森	
川や水辺の名称 *ふりがなを忘れずに!	ふりがな けいひんりんかいぶ 京浜臨海部
所在地	神奈川県 横浜市 神奈川区・鶴見区 付近
川や水辺の状況	京浜臨海部の横浜エリアは、横浜市創生期の明治20年頃より埋立が始まり、重厚長大の工場・事業所が立地したことにより、水辺が市民から遠い存在となっていた。一方で、この埋立て地には、約100haもの企業緑地や公園などの公共緑地がある程度のまとまった規模で点在している。近年の環境問題の高まりから、企業緑地内にとんぼ池を代表とする水辺空間や質も考慮した緑地空間を形成する取り組みが行われ、市民開放を行っている施設も増えてきている。
活動や事業の内容	内容：企業・市民・行政・専門家がそれぞれの立場で参加し、標識-再捕獲法によるトンボの生息調査、ことも向け体験イベント、報告会などをとし、京浜臨海部の緑地の質の向上を目指して活動をしている。 成果：京浜臨海部の緑地の生物多様性に対する機能、役割が解明されつつある。参加企業のすべての緑地でエコアップ（緑地の質の向上）が行われた 課題：フォーラムの自立的活動と他の地域への成果の普及をどのように行っていくかなど
活動・事業の期間	(活動の場合) 2003年から (事業の場合) 着工 年 ~ 竣工 年
以下の項目は、テーマ別テーブル選考のグループ分けの参考にしますので、必ず記入してください	
主に発表したいこと ※一つに○印	① 調査や研究活動 / ② 広報や啓発のための活動等 / ③ 環境学習や体験活動 ④ 水辺の計画づくりや整備事業等への参加 / ⑤ 環境保全や回復の実践活動 ⑥ “いい川”・水辺を実現した技術等 ⑦ その他 ()
発表者 いづれかに○印	小・中・高校生但し高校生は市民等でも可 / 市民 (個人、任意団体、NPO法人等) / 行政 / 官民共働 / 企業 / その他 ()
アピールポイント	①~⑥の各項目で特に該当する内容があれば、番号を示して具体的な内容を記入してください。 ① 企業・市民・行政・専門家連携していること。また参加者がそれぞれの立場で参加し自らの役割を果たす活動であり、ノルマや目標期限を設定していないこと。 ② 明治以来市民から遠い存在となっていた工業地帯の埋立て地の環境を、再認識するきっかけとなったこと ③ 調査結果を専門家が科学的に解析し、市民が評価することで、行政施策への反映や、緑地の持ち主である企業が実施に環境改善に取り組んできたこと。 ④ 10年間調査手法を変えずに肅々とデータの積み重ねを行ったこと ⑤ その他
キーワード(3つ)	① エコアップ ② トンボ ③ 企業緑地
応募者	ふりがな 応募者名
	連絡先 (公開可・非公開) (自宅・下記所属 その他) 該当する方に○印
	所属団体 (市民・行政)
	これまでの参加
住所	よしだ ようこ 吉田 洋子 発表者想定人数：3名・発表者以外参加者 5名
TEL	住所：〒221-0842 横浜市神奈川区泉町15-5 山本ビル201 泉町共同オフィス TEL：045-534-7587 FAX：045-534-7597 E-mail：tonboforum@mail.goo.ne.jp
所屬団体	ふりがな とんぼはドコまで飛ぶかフォーラム 所屬名 トンボはドコまで飛ぶかフォーラム ホームページ URL
これまでの参加	新規 / 第 回大会参加 (一次・二次・三次・グランプリ)

活動を開始して11年目になりました

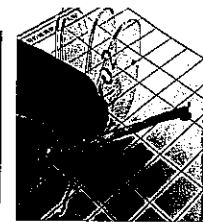
調査方法



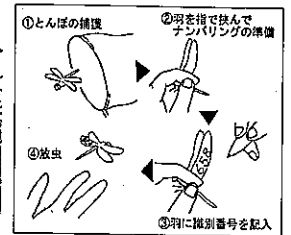
① まずはトンボを捕獲します
神奈川県立三ツ池公園



② 捕まえたトンボの種類を
同定しマーキング後放虫します



マーキングされたシオカラトンボ



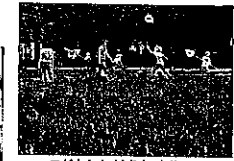
調査成果

京浜臨海部で毎年、400~700頭のトンボにマーキング
11年間の調査で18種、5,332頭のトンボを捕獲

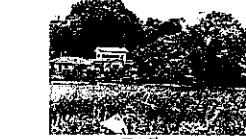
- ① シオカラトンボ
- ② ウスバキトンボ
- ③ ショウジョウトンボ
- ④ オオヤマトンボ
- ⑤ オオシオカラトンボ
- ⑥ ノシメトンボ
- ⑦ コノシメトンボ
- ⑧ アツアカネ
- ⑨ ネキトンボ
- ⑩ アキアカネ
- ⑪ リリアカネ
- ⑫ アキアイトンボ
- ⑬ クロスシギンヤンマ
- ⑭ コシアキトンボ
- ⑮ ハラビロトンボ
- ⑯ マイコアカネ
- ⑰ マルタンヤンマ
- ⑱ ウチヤンマ



生息範囲を拡大する
チョウトンボ



子どもたちが参加する
トンボ捕り大作戦
入船公園



ニツ池



近年僅占種の座を狙う
ショウジョウトンボ



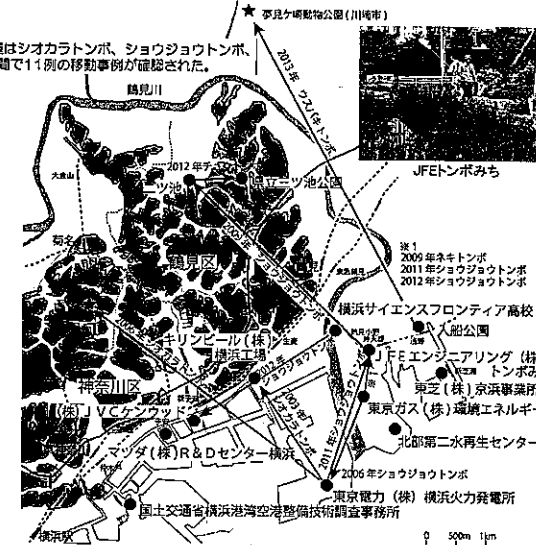
JVCケンウッド



マツダR&Dセンター横浜



国土交通省横浜港空港整備技術調査事務所



フォーラム参加団体

市民活動団体等

- 神奈川区魅力さがせ隊
- 魅力アップ隊
- 鶴見川を再発見する会
- ニツ池プロジェクト
- 三ツ池公園を活用する会
- 貨物線の森ファンクラブ
- トンボみちファンクラブ
- 横浜にとんぼを育てる会
- エコアセットコンソーシアム

京浜臨海部企業等

- キリンビール(株)横浜工場
- 東京ガス(株)環境エネルギー館
- 東京電力(株)横浜火力発電所
- JFEエンジニアリング(株)鶴見製作所
- (株)JVCケンウッド
- マツダ(株)R&Dセンター横浜
- (株)東芝 横浜事業所
- (株)日産クリエイティブサービス
- (株)アーバンコミュニケーションズ
- (株)ポリテックADD

教育機関・専門家

- 横浜サイエンスフロンティア高校理科調査研究部
- 東京都立大学小島研究室
- (財)横浜市教育文化研究所
- おおぞら自然共育舎
- 田口正男博士
- 国土交通省横浜港空港整備技術調査事務所
- 神奈川県三ツ池公園管理事務所
- 横浜市環境創造局
- 鶴見区役所、神奈川区役所

川や水辺の名称	けいひんりんかいぶ 京浜臨海部	活動や事業の名称または応募に当たってのテーマ
所在地	神奈川県 横浜市	トンボでつなぐ京浜の森
応募者氏名(ふりがな) 所属団体	吉田洋子(よしだようこ) トンボはドコまで飛ぶかフォーラム	(記入不要)エントリーNo. 303 E4

活動や事業の名称や応募に当たってのキャッチフレーズ

芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク (愛称:芥川倶楽部)

川や水辺の名称 *ふりがなを忘れずに!	ふりがな いっぎゅうかせん あくたがわ 一級河川 芥川	*川の場合 (淀川水系)	
所在地	大阪府 高槻市		
川や水辺の状況	> 芥川は淀川の一次支川で、高槻市の中央部を北から南へ流れています。 > 延長は25km、流域面積は52km ² 。川幅は中下流域で10~20m程度。 > 淀川の支川の中ではギギやムギツクが息息する、比較的自然的に残された河川です。 > 1970年代には水質が悪化しましたが、今では子供たちの泳ぐ姿が見られるほどに水質は回復しています。また、平成23年3月に下流部の堰に魚道が設置されてからは、中流域の市街地まで天然アユが遡上しています！ > 芥川の特徴は“人々に愛されている”ということです。これからも愛される芥川を守り、育てていきたいと、「おもてなし」の精神で芥川倶楽部は活動しています。		
活動や事業の内容	国の作った新品の魚道を、アユのために市民が削った「おもてなし」 ・手作りの魚道を経て本格的な魚みちが完成。 ・でも、どうも登りにくいような気がしてならない?? ・そこで、ノミやサンダーを持って登り道を削ってみました、、、ん〜、いい感じ! ・市民目線の「おもてなし」これからも続けていきます。	点(拠点)と面(地域)で保全に 取り組む「まるごと おもてなし」 ・芥川は、ちゃんと管理してやれば、もっとも感動を与えてくれるはず。 ・地域活動の拠点となる芥川緑地資料館の管理運営継続。 ・地域住民によるクリーンナップ(千人鍋で打ち上げ)や農業団体と共同の水路清掃で地域一体の保全活動展開!	特定外来生物は、「オモテナシ しません!」 ・2000年頃から分布拡大したミスヒマワリ。 ・芥川高校生物部の調査結果を踏まえ、06年から駆除活動を開始し、府と市の協力を得て現在では活動範囲内でほぼ駆除に成功!! ・これは間違っても「おもてなし」はしませんよ!
活動・事業の期間	(活動の場合) 平成17年から、ほぼ年中活動展開中	(事業の場合) 着工 年 ~ 竣工 年	
以下の項目は、テーマ別テーブル選考のグループ分けの参考にしますので、必ず記入してください			
主に発表したいこと ※一つに○印	① 調査や研究活動 / ② 広報や啓発のための活動等 / ③ 環境学習や体験活動 ④ 水辺の計画づくりや整備事業等への参加 / ⑤ 環境保全や回復の実践活動 / ⑥ “いい川”：水辺を実現した技術等 ⑦ その他 ()		
発表者 いづれかに○印	小・中・高校生但し高校生は市民等でも可 / 市民(個人、任意団体、NPO法人等) / 行政 / <u>官民共働</u> / 企業 / その他 ()		
アピールポイント	① 活動や事業の発想・視点の先進性やユニークさ ② 地域の歴史や暮らしとの結びつき ③ “いい川”づくりへのプロセス ④ 工夫した計画手法や技術 ⑤ その他		
キーワード(3つ)	①市民が主体 ②河川協力団体(官民共働) ③持続的な活動		
応募者	ふりがな	かわかみ たかし	
	応募者名	川上 隆 発表者想定人数: 4名・発表者以外参加者 名	
	連絡先 (公明可・非公明) (自宅・下記所属その他) 該当する方に○印	住所: 〒569-8501 大阪府高槻市桃園町2-1 高槻市 下水河川企画課 担当 平井 TEL: 072-674-7432 FAX: 072-675-3252 E-mail: hirai-to@city.takatsuki.osaka.jp	
	所属団体 (市民・行政) 該当する方に○印	ふりがな あくたがわ・ひとときかなにやさしいかわづくりネットワーク 所属名(団体・部署名など): 芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク ホームページURL: http://akutagawaclub.web.fc2.com/	
これまでの参加	新規 / 第5回大会参加(一次・二次・三次・グランプリ)		

芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク

芥川倶楽部







魚目線のおもてなし

出来立てホヤホヤの魚道を削りました！
魚目線で考えたら登りにくそうなので

NO! オモテナシ!

特定外来生物のミスヒマワリは歓迎していません! あしからず





子ども達の笑顔と好奇心

アユの卵を発見(左) サングラス格好いい(右)
将来はきっと川づくりの達人になってくれる!

お父さんのための魚とり講座

まずはお父さんが楽しみたいと(´▽`)/
ギギも発見しましたよ!





スタッフ自ら選んで調べる

とことんエンジョイ調査
潜りながら湧き水と水温調べてます(左)
アユ遡上の瞬間には感激しました!(右)

観察会&調べ隊

オグナムマガイ、ヒメボタルなど、
いつも発見は感動です!

芥川流「おもてなしの縁」




①ネットワーク(H17~)とNPO(H20~)ネットワーク: 沿川活動団体、行政、専門家の連携
NPO: 市民活動のコア&ネットワークの事務局
②NPOが芥川緑地資料館を指定管理 H21~
交流、調査研究、教育普及の拠点に位置付け
多様な地域、分野の専門家との連携が容易に
③芥川緑地資料館まわりの定例活動 H23~
地域との交流拠点づくり(竹林整備、滞筋づくり)
今年から、芥川そばの田畑の水路清掃にも参加!

連携の仕組みづくり

芥川緑地資料館(あくおびあ芥川)
芥川を知って、調べて、楽しもう!
入館無料、いつも笑顔でお出迎え(´o´)

ふりがな	一級河川 芥川	活動や事業の名称または応募にあたってのテーマ
川や水辺の名称	(淀川水系)	芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク (愛称: 芥川倶楽部)
所在地	大阪府 高槻市	エントリー地
応募者名	芥川・ひとと魚にやさしい	503 E 6
所属団体名	川づくりネットワーク	

活動や事業の名称や応募に当たってのキャッチフレーズ
アユが戻った！人と人がつながった！次は大村湾にスナメリを戻そう！！

川や水辺の名称 *ふりがなを忘れずに！	ふりがな そのぎがわ 彼杵川 *川の場合 (彼杵川水系)	
所在地	長崎県 東彼杵郡 東彼杵町 下三根 付近	
川や水辺の状況 ・住民と川の歴史、関わりなど	・7年前に福岡県の遠賀川に「アユが戻った」との報道を目にし、その活動に尽力されていたのが大学の恩師であった。「彼杵川にもアユ復活」と恩師の指導の受け、自然に即した魚道整備の要望書を河川管理者である県に提出。 ・「彼杵川にアユを!!」の想いに共感した地元小学校の校長先生が総合学習の授業に川の学習を組み入れ、恩師、大学のゼミチーム、小学生による河川調査を行い、清流会や婦人会による河川清掃等を始めた結果、3年前にアユの遡上が確認された。	
活動や事業の内容 ・内容 ・成果 ・課題 など	・彼杵川にはアユの生態や魚道について詳しい住民もいない中で、国交省長崎河川国道事務所諫早出張所長(同じ長崎県内を流れる本明川を管理)に相談。 ・協働で魚道の調査を行うと伴に彼杵小に相談し4年生を対象としたアユの生態や産卵場造りなどの総合学習を実施(学校への広がり、子供から親への広がり)。 ・河川管理者である県(河川課)とは国交省諫早出張所を通じて状況が説明され、国・県・住民3者による現地確認を行い、現在では彼杵川に3基あるうちの2基の魚道の改築が進んでいる。魚道改築や今後の川づくりについては、東彼杵町も入った中で県と住民が協議を進めている。(県・町への広がり、住民への広がり) ・これら活動が広がりを見せる中、東彼杵町長・自治会長も賛同され、今年の9月には第1回彼杵川まつりが開催されるまでに至った。	
活動・事業の期間	(活動の場合) 平成18年から (事業の場合) 着工 年～竣工 年	
以下の項目は、テーマ別テーブル選考のグループ分けの参考にしますので、必ず記入してください		
主に発表したいこと ※一つに○印	① 調査や研究活動 / ② 広報や啓発のための活動等 / ③ 環境学習や体験活動 ④ 水辺の計画づくりや整備事業等への参加 / ⑤ 環境保全や回復の実践活動 / ⑥ “いい川”・水辺を実現した技術等 ⑦ その他(官<国県市>、学<大学>、民<住民・住民団体・小学校>)の協働)	
発表者 いずれかに○印	小・中・高校生但し高校生は市民等でも可 / 市民(個人、任意団体、NPO法人等) / 行政 / 官民共働 / 企業 / その他()	
アピールポイント ① 活動や事業の発想・視点の先進性やユニークさ ② 地域の歴史や暮らしとの結びつき ③ “いい川”づくりへのプロセス ④工夫した計画手法や技術 ⑤ その他	①大村湾にスナメリを戻すことを目的に始めた小さな住民団体の活動が、「アユが戻った」の報道をたまたま見て、彼杵川のシンボルを「清流の女王アユ」に掲げ、本当にアユが戻り、今では町主催の彼杵川まつりを開催するまでに至った。 ①たまたま見かけた報道で恩師と再会できたこと、県管理の河川であるが、半ば強制的に引き込んだ国交省職員が今では良き理解者でありパートナーとなっている。 ③恩師との再会からはじまった取り組みを地域に結びつけるプロセスが、国交省・県河川課・首長・自治体担当課・地元自治会、住民の皆様という逆説の展開をとり、次は、ウエスレアン大学と協働し、国際交流にも広げていく。 ⑤ここまでの中で川の生き物、生育状況は多年に渡り調査をしている。	
キーワード(3つ)	①アユが戻った(彼杵川にアユを!!) ②人と人のつながり ③官学民協働	
応募者	ふりがな 応募者名 池田 健一 発表者想定人数: 2名・発表者以外参加者 名	
	連絡先 (公開)非公開 (自宅・電話所) その他 該当する方に○印	住所: 〒859-3806 長崎県東彼杵郡東彼杵町三根郷1031 TEL: 0957-47-1360 FAX: 0957-47-1361 E-mail: cpwhite@d4.dion.ne.jp
	所属団体 (市民)行政 該当する方に○印	ふりがな ひがしそのぎせりゆうかい 所属名(団体・部署名など): 東彼杵清流会 健一-エッセイ「答えは風の中」で見れます。 ホームページURL: http://www.campingcar-guide.com/kaze/052/
	これまでの参加	(新規) / 第 回大会参加(一次・二次・三次・グランプリ)

プロローグ(7年前) たまたま目にした新聞

東彼杵町移り住み18年!
ふと気づくと子ども達が
彼杵川で遊んでいない?

遠賀川中流に産卵期アユに Where from?

直方で捕獲

う～ん、何?何?
お～。遠賀川にアユ復活ね??
え～～!!
恩師の坂本先生じゃなかね!!!

大村湾にスナメリを戻すこと、彼杵川を子供達が遊べる川にすることを目的に「東彼杵清流会」を立ち上げ

早速、恩師の坂本先生に連絡をとり、30年振りに坂本先生と再会した池田であった。

第1ステップ(「つながり」の始まり)

恩師坂本先生と30年振りの再会後、直ぐに彼杵川に来ていただき、「アユ復活」の活動開始。
恩師の指導の元、自然に即した魚道整備の要望書を県に提出し、河川の調査やゴミ拾いなどの活動を実施。

そんな時、彼杵小学校横尾校長先生と出会う。
「アユ復活」の想いに共感した先生は「山を守ることで、川や海を守ること」と「川の学校」「山の学校」「海の学校」のカリキュラムを作られる。
坂本ゼミチームと彼杵小学校のコラボ(つながり)が実現し、これが、色んな意味でのつながり(広がり)の始まりだった。

ウソのようなホントの話!

彼杵小「川の学習」中に一匹のアユが捕まる!!

第2ステップ(「アユは戻ってきたが・・・」)

東彼杵町の池田と言いますが、彼杵川に30年ぶりにアユが戻ってきたほってん、アユの事知らんし、アユが上れない魚道があることだよ。

彼杵川は長崎県の管理です。県に相談された方が。。

国の方が全国の河川ば見とろうけん、色々知っとろーもん!よかけん、1回現場ば見にきて。

は～あ? (熱意は感じるけど。。。強引な「おっちゃん」やな。。。)

※管轄外の河川であるが、池田代表の熱意と強引さに押され、一度、現地(彼杵川)を見ることになった、国交省 長崎河川国道事務所 諫早出張所 中島出張所長 であった。

一部改良が必要な魚道もあったが、3箇所魚道ともアユが遡上している事を確認。
しかし、魚道改良は自分達だけでは限界が。。
せつかく戻ったアユの事をもっと知って欲しい。(川にもっと興味をもっと欲しい)

23.10月を皮切りに、数回の現地視察、意見交換を実施

アユの生態学習(産卵場造成)

国、県、清流会による現地調査・意見交換

彼杵小にお願いし、アユの生態や産卵場造り改善するのは、管理者の責務(by県河川課長)

アユの生態学習を学校のみならず、地域住民にもつなげる。
留学生が多い、ワシヤ大学と協働し、国際交流につなげる。
最終的には、これら彼杵川の活動を大村湾にスナメリを戻す活動につなげる。

第3ステップ(「現在」更なる「つながり」)

今では、最良のパートナー

県による2基の魚道の一部改築工事が始まり、地域住民との意見交換も行われている。

徐々に広がりを見せた活動に渡邊町長をはじめ、町まちづくり課、沿川自治会長、森で活動する団体も賛同され、町主催の「第1回彼杵川まつり(H25.9.8)」を開催

第4ステップ(「これから」)

活動や事業の名称または応募にあたってのテーマ
**アユが戻った！人と人がつながった！
次は大村湾にスナメリを戻そう！！**

(記入不要) エントリーNo. 802 F 6

活動や事業の名称や応募に当たってのキャッチフレーズ

水と人がつながる山・川・海 皆で取り組む流域一体の川づくり

川や水辺の名称 *ふりがなを忘れずに！	ふりがな やはぎがわ 矢作川 *川の場合 (矢作川水系)	
所在地	長野・愛知・岐阜県 矢作川流域8市2町2村	
川や水辺の状況 ・川幅や瀬や淵など川の形状、水質や流れ、生きもの、景観や名所、洪水や治水などの状況、過去と現在の違い ・住民と川の歴史、関わりなど	<p>・矢作川は利水事業により「日本のデンマーク」と呼ばれる西三河地方の農業用水を中心とした水利用を支えてきた。治水対策として矢作ダムを建設し、洪水被害の軽減が図られている。その一方で、全般的には良好な自然環境を有しているものの、これらの施設や砂利採取等による河床低下が回遊性魚類等の移動に影響を及ぼすとともに、河床材料の粗粒化、砂州の固定化、樹林化、河口干潟の減少等が生じている。</p> <p>・水源林の整備や「矢作川沿岸水質保全対策協議会（矢水協）」による「矢作川方式」と名付けられた水質保全の取組など、住民による環境保全活動の長い歴史があり、「矢作川研究所」や「矢作川「川会議」」による市民や各団体との情報の共有・活動の連携や調査・研究活動が行われている。</p>	
活動や事業の内容 ・内容 ・成果 ・課題 など	<p>矢作川流域圏懇談会は、河川整備計画に基づき、河川管理者だけでは解決できない課題に対して、山から海までの流域圏全体を対象として、個人・市民団体、関係団体、学識経験者、国・県・市町村など100名以上のメンバーの連携・協働により、調和のとれた流域圏全体の発展につなげることを目的に様々な取り組みを実施している。</p> <p>具体的には、市民が中心となり、矢作川現地を学び、意見交換を行うことを通じて、流域圏の課題を自分たちで提案し、その解決に向け、「山村再生担い手づくり(山)」「魚の棲みやすい川づくり(川)」「ごみ・流木調査(海)」など、流域圏一体となった取り組みを行っている。</p>	
活動・事業の期間	(活動の場合) 平成22年から (事業の場合) 着工 年 ~ 竣工 年	
以下の項目は、テーマ別テーブル選考のグループ分けの参考にしますので、必ず記入してください		
主に発表したいこと ※一つに○印	① 調査や研究活動 / ② 広報や啓発のための活動等 / ③ 環境学習や体験活動 ④ 水辺の計画づくりや整備事業等への参加 / ⑤ 環境保全や回復の実践活動 / ⑥ “いい川”・水辺を実現した技術等 ⑦ その他 ()	
発表者 いづれかに○印	小・中・高校生但し高校生は市民等でも可 / 市民(個人、任意団体、NPO法人等) / 行政 / 官民共働 / 企業 / その他 ()	
アピールポイント ① 活動や事業の発想・視点の先進性やユニークさ ② 地域の歴史や暮らしとの結びつき ③ “いい川”づくりへのプロセス ④ 工夫した計画手法や技術 ⑤ その他	<p>①~⑤の各項目で特に該当する内容があれば、番号を示して具体的な内容を記入してください。</p> <p>①川づくりの源である山、川づくりを写す海を加え、川づくりを流域圏という単位で進め、それぞれの地域で川に係る多くの市民、企業、学識者、行政が連携・協働して河川管理者だけでは解決出来ない多様な課題への取り組みや情報共有・意見交換を山・川・海部会が毎月1回以上のペースで進めている。</p> <p>④河川工事の実施に際して、魚、鳥などの生物、植物など詳しい市民、専門家などとともに現地調査・意見交換を行いながらより良い川づくりを行った。ごみ・流木調査を行い、これらの流下物の軽減を図るため、関係機関との調整・連携を図った。いい川づくりを進めるため、流域圏として統一性のある森林管理、矢作川の森の恵みが中下流や海まで行き届く取り組みを進めている。</p>	
キーワード(3つ)	①山川海流域一体の川づくり ②100超の団体等の参加 ③年40回に迫る議論	
応募者	ふりがな 応募者名	にしはら ひとし 西原 均 発表者想定人数：4名・発表者以外参加者 名
	連絡先 (公開・非公開) (自宅・下記所属・その他)	住所：〒 TEL： E-mail：
	所属団体 (市民・行政)	ふりがな やはぎがわりゅういきけんこんだんかい 所属名(団体・部署名など)：矢作川流域圏懇談会 ホームページURL：http://www.cbr.mlit.go.jp/toyohashi/kaigi/yahagigawa/ryuiki-kondan/
	これまでの参加	新規 / 第 回大会参加(一次・二次・三次・グランプリ)

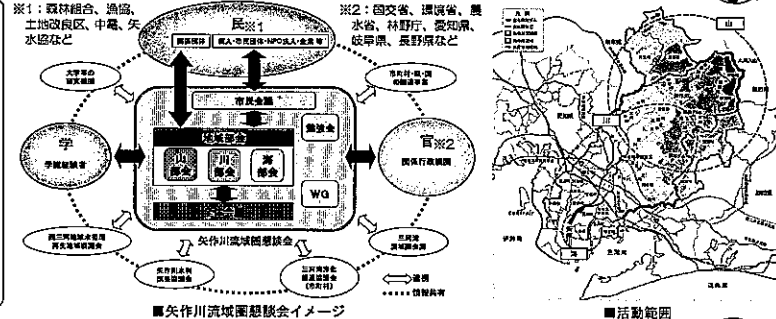
水と人がつながる山・川・海 皆で取り組む流域一体の川づくり



団体名：矢作川流域圏懇談会
発表日：平成25年11月2日

■矢作川流域圏懇談会とは

- ◆目的：河川整備計画に基づき、河川管理者だけでは“絶対”解決できない課題を解決し、いい川づくりと調和のとれた流域圏全体の発展につなげる。
- ◆メンバー：個人・市民団体、関係団体、学識経験者、国・県・市町村など100名以上
- ◆活動内容：市民が中心となり、矢作川現地を学び、意見交換を行うことを通じて、流域圏の課題を自分たちで提案し、その解決に向けた、流域圏一体の取り組みを行っている。



■市民が中心となって、流域圏の課題に取り組み、悩んでいます

【全体】
各部会での活動の情報交換や流域圏一体に向けた議論、市民提案による勉強会等の活動を行っている。

<これまでの主な活動>
・市民企画会議(WG)
・市民会議
・市民提案による勉強会(森の健康、生き物調査、河川事業の勉強など)
・全体会議

【山部会】
検討テーマである「人と地域の問題」「森の問題」を解決するため、事例集、ガイドライン作成に向けて活動している。

<これまでの主な活動>
・山村再生担い手づくり事例集の作成
・矢作川流域山村ミーティング
・森づくり、木づかいガイドラインの検討

【川部会】
「魚の棲みやすい川づくり(上下流問題)」「地先の課題」をテーマに、モデル地区での検討を進めている。

<これまでの主な活動>
・矢作川の瀬・淵調査と保全・創出方法の検討
・家下川(支川)の段差解消・水源確保の検討
・川の活動情報の共有
・河川事業のチェック

【海部会】
ごみ・流木調査、干潟生き物調査、三河湾内水質調査、海へのアクセス調査

<これまでの主な活動>
・ごみ・流木調査
・干潟生き物調査
・三河湾内水質調査
・海へのアクセス調査

■アピールポイント

<活動や事業の発想・視点の先進性やユニークさ>
川づくりの源である山、川づくりを写す海を加え、川づくりを流域圏という単位で進め、それぞれの地域で川に係る多くの市民、企業、学識者、行政が連携・協働して河川管理者だけでは“絶対”解決出来ない多様な課題への取り組みや情報共有・意見交換を山・川・海部会が毎月2回以上のペースで進めている。



川や水辺の名称	ふりがな 矢作川 (矢作川水系)	活動や事業の名称または応募に当たってのテーマ	水と人がつながる山・川・海 皆で取り組む流域一体の川づくり
所在地	長野・愛知・岐阜県 矢作川流域8市2町2村	エントリーNo.	402 D6
応募者名	にしはら ひとし		
所属団体名	矢作川流域圏懇談会		

<工夫した計画手法や技術>
河川工事の実施に際して、魚、鳥などの生物、植物など詳しい市民、専門家などとともに現地調査・意見交換を行いながらより良い川づくりを行った。
ごみ・流木調査や流域圏として統一性のある森林管理、矢作川の森の恵みが中下流や海まで行き届く取り組みを進めている。
2年目から、市民企画会議を新設し、市民主導の運営にシフトした。



川や水辺の名称	ふりがな 矢作川 (矢作川水系)	活動や事業の名称または応募に当たってのテーマ	水と人がつながる山・川・海 皆で取り組む流域一体の川づくり
所在地	長野・愛知・岐阜県 矢作川流域8市2町2村	エントリーNo.	402 D6
応募者名	にしはら ひとし		
所属団体名	矢作川流域圏懇談会		

表彰結果	テーブルNo.	エントリーNo.	都道府県	河川名	水系	所属	賞名
グランプリ	A	3	201	福島県 ふくしまけん だてし しゅ かせん ちしよう 福島県伊達市を主とした河川・池沼		NPO法人環境ワーキンググループ伊達	川の水質調査を20年、その知恵と努力の結果透視度を 目で見て安心を伝えたで賞
準グランプリ	C	6	101	北海道 ゆうぼりがわ 夕張川	石狩川	河川愛護団体リバーネット21ながめま	命を守る訓練で、水に学び親しみま賞
	F	5	404	新潟県 か も こ 加茂湖		佐渡島加茂湖水系再生研究所(カモケン)	市民工事は佐渡からトキのように全国に舞うで賞
入賞	B	2	306	東京都 ぜんぶくじかわ 善福寺川	荒川	善福寺川を里川にカエル会(善福蛙)	遊び心たっぷりのオシャレな川づくりに皆がふりカエルで賞
	C	1	504	滋賀県 びわこ 琵琶湖	琵琶湖・淀川	アイキッズ～エコアイデアキッズびわ湖～	琵琶湖のめぐみの食文化、美味しく伝え広げま賞(しよう)
	D	1	606	岡山県 あさひがわ 旭川	旭川	旭川流域(りゅういき)ネットワーク	リヤカーが川と人を結びつけるで賞
	E	4	303	神奈川県 けいひんりんかい ぶ 京浜臨海部		トンボはドコまで飛ぶかフォーラム	大人の夢を子供達へトンボがきつつなぐで賞
	E	6	503	大阪府 あつたがわ 芥川	淀川	芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク	生き物目線の川づくり 魚も喜んでいるで賞
	F	6	802	長崎 そのぎがわ 彼杵川	彼杵川	東彼杵清流会	つながりを求める優しさがスナメリにも伝わるで賞
入選	A	2	305	神奈川県 ひきちがわ 引地川	引地川	柳とあそぼう引地川	守って育てて20年、市民の努力に自然が応えてくれるで賞
	A	4	302	埼玉県 おやまがわ 小山川	利根川	早稲田大学本庄高等学院	多様な連携と水生生物研究活動は 学校教育の垣根を越えて世界に貢献する人材を育てるで賞
	B	6	304	東京都 えどじょうそとぼり 江戸城外濠		外濠市民塾実行委員会	市民・産官学の4者連携がオリンピックまでに大化けしそうで賞
	C	4	301	埼玉県 とねがわ 利根川	利根川	埼玉共第九号地区運営委員会	鮭を守り、命のつながりを共に感じ育みま賞
	D	2	502	大阪府 よどがわ ねやがわ 淀川・寝屋川	琵琶湖・淀川	摂南大学 エコシビル部	楽しい繋がりが優秀な土木技術者を育てるで賞
	D	3	805	宮崎県 ほうりがわ 祝子川	五ヶ瀬川	宮崎県立延岡工業高等学校	伝統技術の継承が未来の土木技術者を育てるで賞
	D	6	402	愛知県 やはぎがわ 矢作川	矢作川	矢作川流域圏懇談会	水と人が山・川・海の流域を繋ぐで賞
	F	4	806	福岡県 おんががわ 遠賀川	遠賀川	国土交通省 九州地方整備局 遠賀川河川事務所	川と海をつなぐ自然のような魚道は最も魚が喜ぶで賞
森清和賞	A	6	309	全国 にほんぜんこく かわ 日本全国の川	109水系	筑波大学白川研究室『川と人』ゼミ 坂本 貴啓	
広松賞				岡山県 旭川・白賀川・百閒川・足守川・児島湾・瀬戸内海・大野川・玉柏子ども水辺の広場・吉井川	旭川・吉井川	岡山県下7団体(旭川源流大学実行委員会・関西高校理学部・御津の「みどり」と「清流」を守る会・岡山野生生物調査会・旭川流域ネットワーク・玉柏こどもの水辺運営協議会・岡山市立西大寺公民館くらしと環境を考える会)	
“いい川” 技術賞	F	4	806	福岡県 おんががわ 遠賀川	遠賀川	国土交通省 九州地方整備局 遠賀川河川事務所	
	F	2	801	佐賀県 ありあけかい 本状江川(有明海)		佐賀市上下水道局 下水浄化センター	

*「入賞」は公開討論会(最終選考)まで残ったグループ、「入選」はテーブル選考からの推薦または復活選考で全体選考に上がったグループ

*今回は、テーブル選考のテーブルコーディネーターの方々が中心になり、担当した団体それぞれのいい川・いい川づくりのキーワードを呈した賞名を考えていただきました。

第6回いい川・いい川づくりワークショップ みんなで考える"いい川" "いい川づくり" 公開選考会

矢作川

矢作川流域圏懇談会 殿

水と人が山・川・海の流域を繋ぐで賞

入 選



2013年11月3日

いい川・いい川づくり実行委員会

